

酒、たばこ注意、ニンニク最良♡がん克服へ梅村医師、高野口小で生命の授業～ 定期健診大切「家族に伝えてね♪」



子どもたちにがん(癌)の正しい知識を伝え、子どもから家族への啓発につなげたいと、和歌山県橋本市の紀和病院・副院長の梅村定司(うめむら・ていじ)紀和プレスト(乳腺)センター長は5月15日、同市立高野口小学校で「がん教育～生命(いのち)の授業」を開催した。同校6年生33人が家庭科室に参集。

梅村センター長はスクリーン映像を使って「人間の体は約60兆個もの細胞で出来ており、そこに毎日約5000個のがん細胞が生まれる。ナチュラルキラーという細胞が、ガンを退治してくれますが、一生で2人に1人は、がんになる危険性がある」と説明。「死因で多いのは胃がん、大腸がん、肺がん、乳がんの順」、「その原因の70%はピロリ菌や塩分、たばこ、酒など」と話し、「今では早期発見によりほとんど助かるので定期検診が一番大切」、さらに「がん予防の食べ物は、ニンニクが最適」と強調。子どもたちは「きょう学んだことは、とても大切なので、家族や友だちに伝えたい」と喜んでいた。

梅村医師は、このがん教育を平成27年(2015)からコロナ禍中の2年間を除き毎年、同市内の全小学校で実施、今年も続けられる。

写真は梅村センター長から「がん教育～命の授業」を教わる高野口小6年生の子どもたちや、スクリーン映像の1枚。